

## 糖尿病透析患者における AT1 受容体拮抗薬「テルミサルタン」の糖代謝におよぼす影響

第 67 回 大阪透析研究会

第 52 回 日本透析医学会学術集会

佐々木敏作、丸山禎之、逸見加代、戸田和美、林 彩子、桜井美紀、我那覇志真子、松本 愛、岡本真由美、和田 茂(佐々木内科クリニック 腎センター)

【目的】AT1 受容体拮抗剤「テルミサルタン」の糖代謝への影響を検討した。

【方法】糖尿病を合併した維持血液透析患者 22 名に対し、従来服用していた降圧剤 (ARB) より降圧効果が同等の「テルミサルタン」に変更し、24 週間後の糖代謝指標について検討した。

【結果】血圧、BMI、随時血糖、血中 C-peptide には変化が認められなかったが、HbA1c が 6%以上の血糖コントロール不良群では 12 週後より HbA1c(0 週:7.07%、12 週:6.71%) およびグリコアルブミン(GA;0 週:26.83%、12 週:23.98%)の有意な低下が認められ、24 週まで持続した。また、GA の変化率とアディポネクチンの変化率には負の相関関係が認められた。しかし、テルミサルタンの投与量と GA の変化率には関連が認められなかった。

【結論】「テルミサルタン」は他の ARB に比べて糖代謝を改善することが認められ、その効果はアディポネクチンを介するインスリン抵抗性の改善による可能性が考えられた。